大田区自立支援協議会　防災・あんしん部会議事録

文責：石塚委員（事務局一部修正）

（1）会議の名称	大田区自立支援協議会　第６回　防災・あんしん部会				
（2）開催日時	令和７年 12 月３日（水）　13：30　～15：30				
（3）開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター　A棟５階 多目的室				
（4）出席した委員、事務局等	委　員　（部会長：志村　陽子）　＜敬称略＞				
	蛭子 明子	福田 美和	山内 京子	竹内 千代江	大江 千枝
	粟田 修平	川端 英吏子	生駒 友一	西條 由美子	近藤 博子
	窪田 千亜紀	石塚 由江			
	事務局：　山下 潤二、秋山 仁志、上玉利 芳綱、小林 琴葉				

1　連絡・確認事項

（1）　司会・書記の確認（司会：竹内委員、書記：石塚委員）

（2）　参加者・配付資料の確認

欠席者　名川委員、北畠委員

2　前回専門部会の振り返り

第５回専門部会の議事録・ご意見カードの確認　【資料１・資料２】

3　議題

（1）令和７年度 大田区総合防災訓練について

日　時：令和７年 11 月 16 日（日）　９時～11 時 30 分

場　所：大田区立糀谷中学校

参加者：糀谷地区自治会連合会（10 の自治会・町会）、しいのき園、大田区聴覚障害者協会、大田区視覚障害者福祉協会、その他の障害者団体、避難行動要支援者対策連絡会議、大田区（防災危機管理課、福祉管理課、糀谷特別出張所、糀谷中学校防災活動拠点職員）、警察署、消防署・消防団、自衛隊、東京ガス、東京電力パワーグリッド、　ＮＴＴ東日本、東京都下水道局など総勢 1,270 名。

内　容：要配慮者スペース訓練の他に、体験型訓練、展示・広報ブースなど。

要配慮者スペース訓練（２つの視点で実施）

①「要配慮者受け入れ訓練」：避難者（要配慮者）のヒアリング・誘導・ 要配慮者スペースでの対応を訓練。

②「要配慮者スペース展示訓練」：要配慮者スペース物品の展示・説明。

（要配慮者スペース訓練に参加協力した委員、見学した委員からの感想）

・　暑さ・寒さを考えた場合に、受付の設置場所が適切なのかが疑問。また、ヒアリングにかかる時間の長さも気になった。「要配慮者スペース」が２階になることで、階段での誘導の様子を見ていた。車いすごと持ち上げての移動は運ぶ方の大変さもあるが、障がいのある人には恐怖感が生じるのではないかと思った。しかしながら、要配慮者の対応訓練がはじまったばかり、これからだと感じた。

・　受付でのヒアリングの際、「聴覚に障がいがあるのでマスクを外してください」とお願いした。当日は手動の車いすを利用していたので、２階の「要配慮者スペース」に移

動の際は、車いすごと担いでいただいた。私自身はこのような対応に慣れているが、慣れていない方には不安があるかもしれないと感じた。

・ 敢えて、ガイドヘルパーさんがいない設定で受付に臨んだ。受付の方に「ここへ」と言われたが、私には受付の場所がどこにあるかがわからなかった。また、話をしてくださっている方がどういう方なのかがわからないので、私の個人情報をどこまで伝えてよいのか戸惑った。初めに役割などを言っていただけるとありがたい。「要配慮者スペース」へ誘導の際、丁寧に対応していただいたが、歩くスピードがゆっくり過ぎて転びそうになった。誘導してくださる方に歩調が合わないことを伝えたが、真意が伝わらなかったようだ。「視覚障がい者＝“歩くのはゆっくり”」とは限らない。「要配慮者スペース」では、出入り口に近い場所の段ボールベッドに座らせていただいた。視覚障がいのある者にとって、出入り口に近いことや壁伝いに移動できることはとてもありがたい対応だった。

・ このような訓練を見学でき、「災害時の避難所ではこんな方法で要配慮者の対応を行うんだ」ということがよくわかった。しかし、知らない人は多くいると思う。受付はチェック方式で行い、質問の順番や受付内容なども考えていただくとよいと思った。

・ 訓練に参加していないが、同じ社会福祉士会のメンバーの方が詳細な報告書を作成くださったので様子がよくわかった。訓練の課題を受け、ブラッシュアップし、より良い運営体制を構築していければよいと感じた。（報告書は、本部会の資料として提供）

・ 丁寧な受付だったが、自立支援協議会が作成した「ヘルプカード」を活用していただくとよいと思い、アンケートにもそのことを書いた。要配慮者の支援が訓練に位置付けられた初めての訓練であった。参加された自治会・町会の皆さんの中で、この訓練を話題にしていってほしい。よりよいものになるよう、今後も応援していきたい。

（３） 自立支援協議会運営会議の報告

（志村部会長から）

運営会議は、会長、副会長、各部会長、各事務局がオンラインで行う会議体のこと。名川会長から防災・あんしん部会が行ってきたここまでの積み重ねをプレゼンできるようにしていってはどうかと言っていただいた。これまでの経過を、新しく部会に入られた方にもわかるように足跡を残していきたいと思う。また、「権利擁護」は取り組みの難しさもあるが、防災・あんしん部会の中で引き続き一緒に取り組んでいくようにとの有難いアドバイスもいただいた。

（４） 今後の取組みについて　【資料３】

（事務局から）

「障がいゆえの災害時特有の不安・困りごと」は、スペシャルデーでの展示によって、会場に来てくださった一般の方にも理解していただいたように思う。本資料をもとに、別紙の観点（①課題・困りごとに対して何ができる？どのようにしたら解決できる？②どのように地域へ広げていく？）に焦点を絞って意見交換していただければと思う。

（委員から）

・ 障がい種別ごとに困り感は異なる。防災・あんしん部会で（要配慮者の）防災訓練を計画するのはどうか。行政と協力し合い、一般の方に知ってもらえる機会となるよう取り組めたらよいと思う。
・ 「障がい」について知ってもらうこと、「こんなことがある」ということを知り合うことが大事だと常々考えている。直接災害時に支援に携わる方に知ってもらうことが必要。困りごとをまとめた状態のものを皆が見られる場所に貼るなどして、「何ができるか」を皆で考えていけたらよい。
・ 阪神淡路大震災の時、倒壊家屋などから救助された人の約８割は地域の方々の助け合いだった。また、徳島県の旧海部町（現海陽町）では「病（やまい）は市（いち）に出せ」という古くからの格言があり、平時の課題やトラブルが重症化しないうちに口に出し、地域で課題を解決してきたと言われている。地域住民が高齢化し日中の働き手が不在との切実な声もあるが、困りごとを共有しやすい環境づくりや大小さまざまな課題を同時に考え学び合うことができればよいと思う。
・ 【資料３】を見て、困りごとがそれぞれ違い、すべてを解決していくのは難しいと感じた。小学校では、毎月避難訓練を行っている。障がいのある人たちの存在を子どもたちに気付いてもらえるとよい。車いすステーション事業を行っているが、障がいの有無に限らず、車椅子を利用する方はたくさんいる。今ある防災訓練に（要配慮者の訓練を）入れていけばよいし、やっていく必要がある。
・ 避難所受付は、チェック方式の項目を準備することが望ましい。現状として、障がいのある方が地域の防災訓練に参加しにくい。地域の方の中には、障がいの「ある方にどう話しかけてよいのかわからないという方がいる。「こういう声の掛け方でよかった」という気持ちになるよう、地域の方に障がいのことを知ってもらうことが第一だと思う。
・ 自分の自治会での防災訓練にバリア（階段）があり、受付にたどり着けなかった。受付の場所への矢印もわからなかった。重度障がい者の方に災害時に何が困るかと聞いたら、「トイレ」のことが不安だと言っていた。
・ 自治会の方から、「防災訓練があるが来なくていいよ。危ないから参加しなくてもよいよ」と言われたが、あえて白杖を手にして参加した。「私はここにいる」ということを地域の方に知ってもらい、目の見えない人の困り感を伝えている。障がいの有無に関わらず、自分にできること・できないことがあり、補い合うことが大事なのではないかと思っている。先日、避難所ゲームに参加した。避難所に、妊婦さん、DV を受けた人、怪我をした人などいろいろな人が集まり、その都度待機場所をどんどん振り分けていくというゲームだった。私の前にいる人が唐突に「避難所には普通の人だけがくればいいんだよ」と発した言葉に驚愕した。避難所にはさまざまな人が駆け寄るが、世の中にはいろいろな人がいるんだということを実感した瞬間でもあった。
・ 障がいゆえの災害特有の困り感は、障がい種別ごとに異なるものと思うが、自助・共助の部分でどのような備えを個人個人がしているかによっても異なるのではないかと思う。また、大田区の関係行政機関が既に取り組んでいる災害対策や仕組みを知っているか知らないかによっても困り感が変わるのではないかと思う。

・ 聴覚障がいの理解啓発講座が年に２回開催されているが、なかなか広まらない。無料の講座もたくさんあるが知られていない。どうしてだろうかと思う。地域庁舎によっても取組みがさまざまな状態。今後、当事者が考える防災訓練を企画できるとよいと思う。
・ 「東京 2025 デフリンピック」のボランティアに参加した。外国の方には質問されたが、日本人は私に聞いてこない。これは、何を意味するのか。日本人は障がい者に慣れていないのだと思う。子どもたちへの理解啓発だけではなく、大人にも理解啓発は必要。当事者が伝える場を作ってほしい。
・ 階段で車椅子を担がれた経験は何度もあるので、私は担いでくれる方に説明できるが、経験のない人には説明できるように準備しておくことが必要だと思う。理解啓発については、自分が発信していくことで少しずつ周りが変わっていければよいと思う。
・ 聴覚障がい者の方もさまざま。「ここにいる」ということを知ってほしい。
・ ヘルプカードを自助のツールとしてこれからも活用していただきたい。「私を知って！」という内容は、個々の困り感としてヘルプカードに記載しておいてほしい。11 月３日のスペシャルデーで困り感の展示に寄せていただいたコメントも、今後伝えていけるとよい。区職員向けの講座には、防災・あんしん部会の委員を活用してほしい。いつもいるのに、災害時には障がい者がいなくなってしまう。そんなことにならないよう、防災・あんしん部会の中で障がいのある方たちの取り組みを整理し、さまざまな所に反映させていきたい。

４　委員及び関係機関からの情報提供

（１）　情報提供

（事務局から）

・ ヘルプカードに関する区民からの提案　【資料４】
・ 中間報告書・第２回本会について　【資料５】
・ 大田区自立支援協議会だより第 27 号（令和７年 11 月発行）の配布
・ おおた　みんなのつどい　プロジェクト総括イベントのお知らせ
・ おおた福祉フェス 2025　主催：大田区介護保険サービス団体連絡会・大田区

（生駒委員から）

・ ポルケコンサート、デジタルストーリーテリング報告会のチラシ配布
・ 映画上映会＆トークイベント「夜明け前のうた　消された沖縄の障害者」チラシ配布
・ 総合防災訓練（参加報告）

（２）　ご意見カードの記入

※次回の日程

● 第７回専門部会：令和８年１月７日（水）　13 時 30 分～15 時 30 分
会場：障がい者総合サポートセンター A棟５階 多目的室